

令和元年度第2回 稲沢市地域公共交通会議 会議録

【日 時】 令和2年2月10日（月）午前10時00分から午前11時30分まで

【場 所】 稲沢市役所 第1分庁舎 第2・第3会議室

【出席委員数】 19名

【傍聴者数】 0名

【議事次第】

1 あいさつ

嶋田会長

2 議事

報告事項1 稲沢市コミュニティバス及びコミュニティバス接続便の利用
状況報告について

報告事項2 稲沢市コミュニティバスOD調査結果について

協議事項1 『稲沢市コミュニティバス運行事業計画』変更について

3 その他

(1) 「稲沢おでかけタクシー実証実験」の実施について

(2) その他

【議事内容】

2 議 事

報告事項1 稲沢市コミュニティバス及びコミュニティバス接続便の利用状況
報告について

- 資料番号1に基づき、平成31年4月1日から令和元年12月31日までの「コミュニティバス及びコミュニティバス接続便の利用状況報告書」の説明を行った。

【主な意見】

- ・ これまでも要望してきたがJR清洲駅への接続や日下部、北市場地区への運行など、大里東地区の住民の利便性も考慮いただきたい。

→ 清洲駅への接続につきましては、これまでも実測を重ねてまいりましたが、日下部の踏切通過時間が問題であるとともに、清洲駅ではバスの転回場所が確保できないため、現状では適切な路線設定が難しい状況です。

今後も引き続き清洲駅や大里東地区への接続を「稲沢市コミュニティバス運行事業計画」の課題とし、検討を行ってまいります。

- ・ 稲沢市コミュニティバス接続便の利用件数が「同計画」変更前と比較すると増えているがどのような理由が考えられるか。

→ 利用件数が増加した理由といたしましては、交通空白地帯の見直しに係るコミュニティバス接続便乗り場の増設や、予約時間の短縮などで利便性が向上した結果、利用の増加に繋がったものと考えております。

- ・ 稲沢市コミュニティバス接続便の「上三宅」が『復路のみ』、「鷲尾」が『往路のみ』の片道利用となっているが、どういった理由が考えられるか。

→ 片道利用の場合、一般的には家族や友人に乘せて行ってもらったりしているのではないかと考えられますが、平和支所地区につきましては「稲沢おでかけタクシー実証実験」を実施しておりますので、その影響であることも考えられます。

報告事項2 稲沢市コミュニティバスOD調査結果について

- 資料番号2に基づいて、稲沢市コミュニティバスOD調査結果について説明。

【主な意見】

- ・ 下津・稲沢線の中での「本町通り」、「大正通り」の利用が低調であるように見える。同線は通勤通学にも利用できると思うため、市内外問わず周知すべきではないか。

→ 「本町通り」、「大正通り」につきましては、名鉄バス路線が運行しておりましたが、平成25年からの下水道工事の影響によりバス路線が移設され、長い公共交通の空白期間がありました。

現在の下津・稲沢線につきましては、当時の名鉄バス路線と同じ路線、

停留所を運行しておりますが、利用者数は伸び悩んでいるのが現状です。
今後も引き続き「下津・稲沢線」を含むすべてのコミュニティバスの
利用促進に努めてまいります。

協議事項1 『稲沢市コミュニティバス運行事業計画』変更について

- 資料番号3-1、3-2に基づき、『稲沢市コミュニティバス運行事業
計画』変更について事務局より説明を行った。
質疑応答後、原案どおり合意を得た。

【主な意見】

- ・ 資料番号3-2の「大里線」の路線変更について、道路工事終了後は変
更前の運行路線に戻すよう、改めて地域公共交通会議において協議させて
いただきたいと思いますと考えております。

【地域協働課】

- ・ 変更を提案された道路の北側に別の道路があるが、提案された道路 を
選択した理由は。

→ どちらも道幅は同じくらいですが、北側の道路は一部交差点の見通し
が悪い場所があるため、今回提案させていただいた道路を選択しており
ます。

3 その他

(1) 「稲沢おでかけタクシー実証実験」の実施について

- 資料番号4-1に基づき、「稲沢おでかけタクシー実証実験」の利用状
況を報告、資料番号4-2に基づき今後の「同実証実験」の制度概要を説
明。

【主な意見】

- ・ 「稲沢おでかけタクシー実証実験」の実施にあたり、バスの利用促進に
繋がるような取り組みは考えていないか。

→ 「稲沢おでかけタクシー」を「バス」のフィーダーとしても利用で
きるよう、「稲沢おでかけタクシー」を利用されたかたが「コミュニテ
ィバス」に乗車する際、バス料金を割引する割引券の発行を考えてお

ります。

- ・ 現在、実施されている「稲沢おでかけタクシー実証実験」が「コミュニティバス」に与えている影響はどのように分析されているか。

→ 「稲沢おでかけタクシー」利用者の上位15名の住所や目的地など分析しましたが、平均年齢は80歳を超え、自宅からバス停留所から10分から15分程度離れており、また、目的地についてもバス停留所が設置されていない場所の利用が多くなっており。

そのため、バスに深刻な影響を与えているとは言えませんが、大里線の不調な理由に関係していないとも言えません。

令和2年度からは市内全域で展開するため、今後も「コミュニティバス」と「稲沢おでかけタクシー」との関係を注視してまいります。

- ・ 「稲沢おでかけタクシー」は非常に便利な制度であるため、利用は右上がりの増加し、市の負担も増加することが予想されるが、市の財政的に問題ないか。

→ 類似の事業を実施されている江南市では、年々利用が増加し、財政を圧迫しているという状況にあります。

本市でも令和2年度から市内全域で実証実験を実施し、利用状況等と併せて市の負担額についても分析し、本格運行に向けて検証を進めてまいります。

(2) その他

- ・ 参考資料に基づき「令和2年度のスケジュール」を説明。
- ・ 令和2年4月6日の聖火リレー実施に伴い、バスの一部運休等の対応を検討していることを報告。

以上で閉会した。